

8. 育苗指針

植栽する広葉樹の苗木は、できるだけ小下沢に自生している在来の樹木から種子を採集して育苗し、使用するよう努力する。

そのために、苗床づくりを行い、育苗管理体制を整備する。

なお、小下沢での種子の採取が困難な場合は、できるだけ近傍の地から採取し、関東圏以外の種子の使用は、遺伝子の混雑を防止する観点から行わない。

8.1. 種子の採取

結実の時期、成熟の時期を判定して種子の採集を行う。

結実の形態： 堅果(コナラ、ブナ) 球果(ハウノキ) 核果(ヤマザクラ)

集合果(ヤマハンノキ) 小枝についたまま落枝(ケヤキ)

種子採取の方法： 落枝、落果採集、種子トラップ、高枝切り、木登り採取

8.2. 貯蔵

水洗法等で精選した後、保冷貯蔵又は土中埋蔵する。

8.3. 播種

新鮮タネを秋に取り播き又は貯蔵種子を春播きする。

貯蔵種子は低温湿層処理で発芽促進。

乾燥種子は内発性の胚休眠をするので、温湿条件による前処理で発芽促進。

8.4. 育苗、山出し

秋に取り播き翌春発芽、1年で10~20cmに生長。

翌春ポットに床替え、更に1年育苗して、2年生苗40~50cmで翌春山出し植樹。

直根性のものは床替え時に根を切りつめ細根の発生を促す。

生長の良いものは、1年生苗で山出し植樹。なお、山引き苗についても積極的に活用する。

8.5. 自家育苗苗木

会員が自家で育苗した苗木を持ち寄って育苗することを奨励。

この場合、種子の採取地を明らかにして会に届け出て、決められた植樹地に植樹。